

観光ガイドコース_E 悠久山 長岡の教育への志 コースについて
190129 改訂 春日

案内コース

1. ガイドのコンセプトとコース概要

- (1) ガイドのコンセプト
- (2) コース概要
- (3) コース訪問先リスト
- (4) 学校の開校、開学

2. 市内の関連するブロンズ像と石碑

- (1) 星野嘉保子・復元像
- (2) 星野嘉保子の碑
- (3) 三島億次郎の碑
- (4) 松岡譲の碑
- (5) 小林虎三郎の碑
- (6) 「友情の双像」

3. 各寺院に關係する教育者の詳細

- (1) 唯教寺
- (2) 眞照寺
- (3) 興国寺
- (4) 昌福寺
- (5) 昌福寺・鶴殿団次郎

4. トピックス

- (1) 星野嘉保子碑の「以成肅雍之徳」について
- (2) 教育の複線化
- (3) 誠意塾主・高橋竹之介
- (4) 小国山口家と長岡実業学校創設、
さらに工学高等教育研究機関の誘致
- (5) 「米百俵」の物語が、長岡で生まれた背景
- (6) 悠久山 鶴殿団次郎の碑
- (7) 山田又七と工学部キャンパス

三島君碑、星野嘉保子碑の碑文

長岡現代美術館館長の挨拶に、「教育と文化の振興」の文字

山口家のりかさん ～長岡の発展に尽力した人を育てた傑物

平三郎・万吉ら子息、権三郎・野本恭八郎ら孫を育てた女性

コースマップ、話題マップ

参考作品図 新潟市・西大畠の「良寛さん遊ぼ」、長岡・石彫の道

悠久山の美術・文学・学術関連の碑のご案内のごコースについて 161006 春日正利

悠久山を中心に、右のような美術・文学・学術に関する数か所の像や石碑をご案内し、通常の散策と違った一面をPRさせてもらおうと思います。ご案内の最初に、草生津にある唯教寺の星野嘉保子・復元像の見学を組み込んでいます。予想所要時間は、近美発着の場合、3時間程度だと思いますが、(5)以下の現地見学を省略して説明だけにすれば、2時間程度に短縮可能と思います。

- (1) 星野嘉保子・復元像(草生津・唯教寺)
 - (2) 星野嘉保子の碑
 - (3) 三島億次郎の碑
 - (4) 松岡譲の碑
 - (5) 鵜殿団次郎の碑
 - (6) 小林虎三郎の碑
- 以下、全て
悠久山公園内
時間があれば

(1) 星野嘉保子・復元像
(草生津・唯教寺の本堂前)



(2) 星野嘉保子の碑



1923年(大正12年)
建立の戦時金属供出
前の銅像
(武石弘三郎作)
長岡市史、及び、
長岡市政100周年
eライブラリより



(2) の碑文「以成肅雍之徳」は、西園寺公望によるもの。(この字の扁額は唯教寺にあるもの)
武石弘三郎は、この西園寺公望の銅像を都内に建てていますが、これも戦時金属供出。
学校教育支援者としての西園寺公望の一面、そして西園寺公望像の立命館にある復元像の話。

(3) 三島億次郎の碑



(4) 松岡譲の碑
碑文、撰文とも堀口大學



(5) 鵜殿団次郎の石碑 (幕末期の洋学者。蕃書調所教授。号は春風)
石碑の右半分が日本海軍生みの親の勝海舟、左半分が初代連合艦隊司令長官(日清戦争黄海海戦時)の(伊東祐亨)すけゆきの撰文で、団次郎がただものではないことがわかります。
ちなみに、東郷平八郎は3、4代、山本五十六は、26、27代の連合艦隊司令長官です。
鵜殿団次郎の墓は、市内の昌福寺にあります。昌福寺についても、お話しします
尚、石碑への道は、釜沢・石工の道を模しています。(参考作品図に、復元・石工の道の写真)

(6) 小林虎三郎の碑 ~ 上記とは離れているので、お話しするのみにする予定です。

観光ガイドコース_E 悠久山 長岡の教育への志 コースについて 170214改訂 春日

1. ガイドのコンセプトとコース概要

(1) ガイドのコンセプト

中之島長呂の銅像「友情の双像」の関係者4人、すなわち像のモデルの武石貞松と堀口久萬一、製作者の武石弘三郎と碑文撰者である大學の学習経歴をみると、寺子屋、漢学塾、小学校、旧制中学、東京の学校への進学あり、で、明治期の教育のコースが単一ではなかったことが分かります。さらに弘三郎は、長岡の女子教育の先駆者の像、そして燕の漢学塾・長善館に学んだ医学者の像も製作しています。そんなことから、明治期の教育制度にも関心を持つようになりました。そして長岡には、藩校崇徳館から国漢学校、洋学校という「米百俵」だけではなく、それとともに、漢学塾、私立学校も併行する、いくつもの教育の志が貫かれており、そのことが忘れられているのでは、と思うようになりました。

特に、全国に先駆けた個人による図書館の設立、そして既に大正末期に、後の県下で最初の工業高校、工業高等専門学校、大学工学部の三点セットとなる中等・高等工学教育機関がそろっていたという、全国でも希有の都市でした。

これらの工学教育、そして山口権三郎、野本恭八郎兄弟の教育への情熱は、オイルシティ長岡の繁栄とも密接に関係しており、それらを含め、長岡の歴史の中に位置づけ、消滅してしまった学校、現存してしている学校や図書館の精神をまとめたいと思います。この連綿と続く、長岡の「教育への志」は、海外からのお客様のみならず、市内・県内・国内のお客様にも、誇るべきメッセージになり得ると考えます。

駒形十吉さんは、戦前からの長岡商業界のリーダーで、長岡現代美術館の創設者でもあります、その所蔵品カタログの館長挨拶に、「教育と文化の振興」の文字がありました。そのほか大勢の先覚者がいたはずで、それらをガイドの中で、お話していきたいと思います。

(2) コース概要

悠久山には、江戸中期から幕末、明治の長岡の歴史を示す石碑や建造物が数多くあり、美術・文学・学術に関しても、いくつかの観光コースを設定できますが、教育に絞っても、小林虎三郎のほか、星野嘉保子、三島億二郎の石碑があります。

また草生津の唯敬寺の本堂前には、星野嘉保子の復元像があります。

そこで、江戸期から明治にかけての長岡の教育を、千手、草生津の教育に関する寺院と悠久山の石碑を横串に、ひとつのテーマにまとめようと思い、案内コースを計画しました。

一番訴えたいのは、江戸、明治期の長岡人の「教育への志」、情熱です。

(3) コース訪問先リスト

最初に、草生津、千手の寺院めぐりです。		
(1)唯教寺 (草生津)	女子教育の先駆者、 星野嘉保子	本堂前の星野嘉保子・復元像 本堂内の西園寺公望の書 (悠久山の石碑碑文の元)
(2)眞照寺 (千手)	誠意塾開設者、高橋竹之介 竹之助は多くの側面をもつ	高橋竹之助の墓
(3)興国寺 (千手)	長岡の教育の基礎を作った 小林虎三郎、雄七郎	小林虎三郎、雄七郎との 二人の墓

悠久山に移る前に、いくつか周れば、		
(1) 崇徳館、誠意塾のあった場所	(阪之上)	
(2) 昌福寺	国漢学校 仮校舎	
(3) 市立中央図書館、体育館、市民中央公園		新潟大学工学部址碑

つぎに、悠久山に場所を移動し、石碑巡りです。		
(1) 星野嘉保子の碑		復元像 唯敬寺
(2) 三島億次郎の碑		銅像(信濃川左岸、日赤近く)
(3) 松岡譲の碑 (堀口大學の碑文)		参考 中之島の「友情の双像」
(4) 小林虎三郎の碑		銅像 ふるさとの森「米百俵の群像」

松岡譲については銅像はありませんが、松岡譲の石碑の碑文作者の堀口大學は、中之島の銅像、武石弘三郎の製作の「友情の双像」の碑文の撰者でもあります。

唯敬寺の星野嘉保子像は復元像ですが、オリジナルの像は悠久山の石碑のところにありました。

「友情の双像」の武石貞松、堀口久萬一、そして製作者弘三郎とともに、高橋竹之介の誠意塾に学んでいます。また小林虎三郎と三島億次郎は終生の親友であり、河井継之助とともに、3人は藩校で学び、お互いを認めた盟友でした。

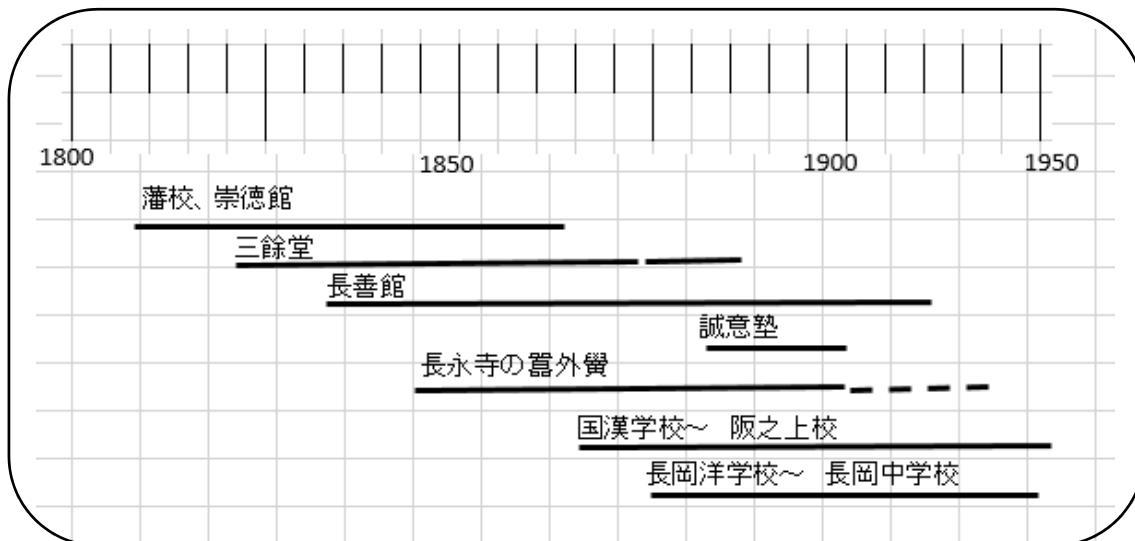
武石弘三郎は、この西園寺公望の銅像も、東京に作っています。(これも戦時金属供出星野嘉保子の支援者である西園寺公望は、高橋竹之介が尽力した大河津分水建設に助力したことでも知られておるよう、取り上げた人たちは、皆お互いに縁のある人たちであり、長岡の教育への志を共有する、奇跡のような不思議さを感じます。

(虎三郎の「米百俵・国漢学校」、三島億二郎の長岡洋学校については、長岡駅周辺コースで説明。尚、武石弘三郎は、現在のアオーレの場所にあつた宝田石油本社前に、山田又七の銅像も製作しています。これも戦時金属供出です。)

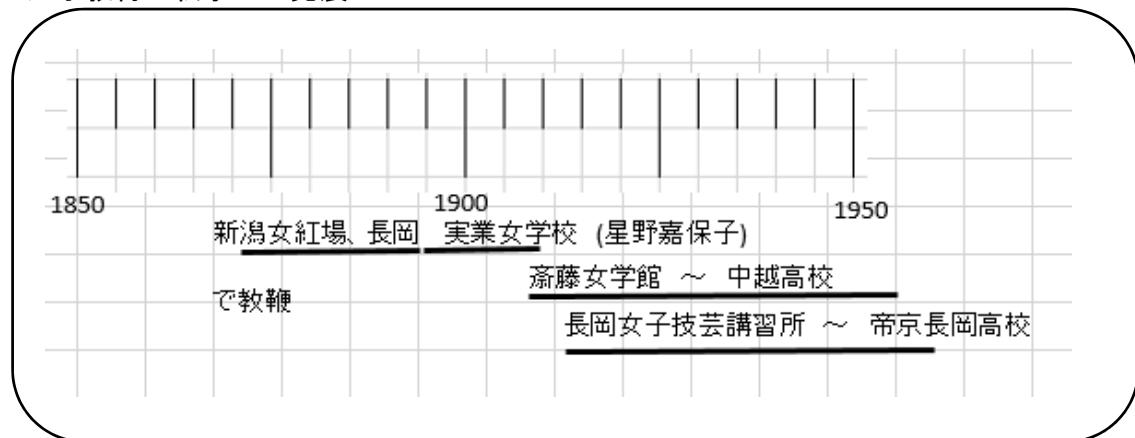
(4) 学校の開校、開学

- ・江戸末期から明治初期、藩校、及び先駆者による漢学塾、政府新学制の学校
 - 藩校、崇徳館(1808-)
 - 刈羽郡・三餘堂(1819-)、蒲原郡・長善館(1833-)、長岡町・誠意塾(1883-)など、漢学塾の果たした役割
 - 長永寺の囲外塾(1845-)など、寺院の漢学、宗学教育
 - 国漢学校(1869-)、長岡洋学校(1872-)
- ・明治中期の、教育先駆者による私学開校、図書館開設
 - 山口家の人々の創立による実業学校(1892-)と互尊文庫(1918-)
 - ～ 市立互尊文庫、市立図書館への系譜
 - 星野嘉保子の実業女学校(1889-)、斎藤由松の斎藤女学校(1905-)など
 - ～ 長岡商業会議所内に私立長岡女子芸術講習所(1908-)から長岡女学校、帝京長岡への系譜
 - ～ 斎藤女学校から中越高校・長岡大学への系譜
- ・明治後期から大正期の工学専門教育機関の開学、昭和の開学
 - 工業学校(1903-)～長岡工業高校
 - 長岡高等工業(1924-)～新潟大学工学部(-1980)
 - 長岡高等工業専門学校(1961-)
 - 長岡技術科学大学(1976-)
- ・平成の開学
 - 長岡造形大学(1994-)

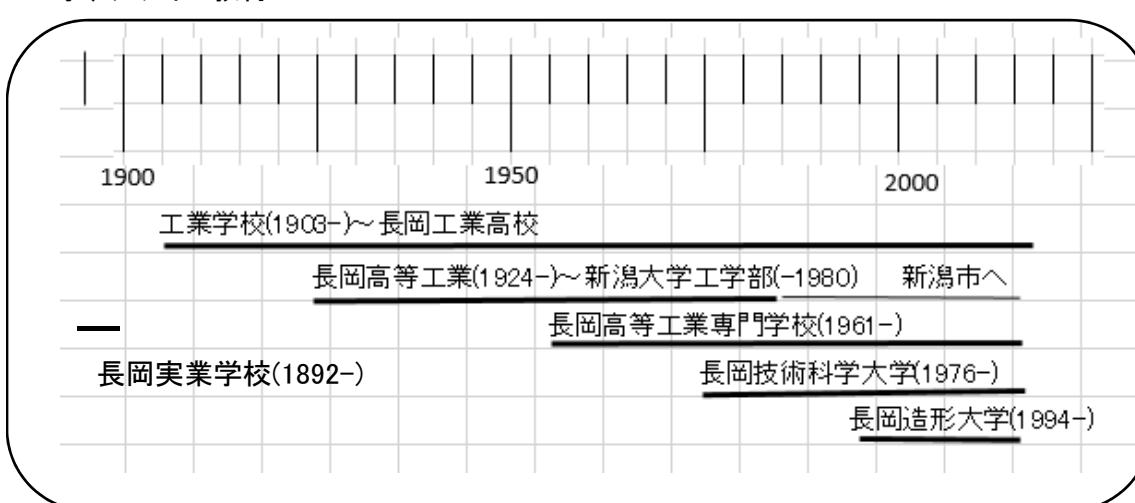
藩校、漢学塾から国漢学校、長岡洋学校



女子教育～私学への発展



工学、デザイン教育



2. 市内の関連するブロンズ像と石碑

(1) 星野嘉保子・復元像



(草生津・唯教寺本堂前)

(2) 星野嘉保子の碑



1923年(大正12年)
建立の戦時金属供出
前の銅像
(武石弘三郎作)
長岡市史、及び、
長岡市政100周年
eライブラリより



(2) の碑文「以成肅雍之徳」は、西園寺公望によるもの。(この字の扁額は唯教寺)

日本女子大を含め、学校教育支援者としての西園寺公望の一面、そして京都の立命館大学にある西園寺公望像の復元像も説明します。

(3) 三島億次郎の碑



(4) 松岡譲の碑

碑文、撰文とも堀口大學です。
二人の業績、交友を説明。



(5) 小林虎三郎の碑

(6) 「友情の双像」



3. 各寺院に関する教育者の詳細

(1) 唯教寺

嘉保子は、岩室の医師の家から星野家に養女として入ったのち、新潟の女工場(授産所)の生徒総取締や表町学校で裁縫教師などをつとめ、温良・高潔な性格が敬愛された。

明治22年(1889年)、女子教育の必要を説き、坂之上町に私立長岡女学校を設立。

明治34年佛教慈善會を設立、第一回事業は、唯敬寺に裁縫教授所を併設。

日清、日露戦争時、軍需のわらの深沓を作り、工賃を軍に寄付。

仏教を厚く信奉し、長永寺、觀光院の救世院の法話を聞きに行ったという。

觀光院の救世院は、現在の如是藏博物館のところにあった。

唯教寺は、戊辰の役のころ、現在地を中心に広大な境内を持っていて、長岡藩の食糧調達を命じられたといわれている。

(2) 眞照寺

高橋竹之助は、戊辰の役で新政府軍越後戦線の参謀役であった勤王家。

燕の漢学塾、長善館に在籍。明治14年(1881年)、私塾の漢学塾、誠意塾を開設。誠意塾を閉じた後は、大河津分水建設に尽力。

亡くなった翌年の追悼会において、三島億二郎が長文の詞をささげている。

中之島杉之森の記念碑には、塾の門人であった武石貞松謹撰の文字。

同じく中之島長呂に、誠意塾に学んだ武石貞松、堀口久萬一の「友情の双像」が、同じく門人で、日本彫塑界の先人・武石弘三郎の手になるプロンズ像がある。脇に立つ「双像有情」の石碑には、堀口大學の、簡潔明快な碑文。

(3) 興国寺

小林虎三郎、十七歳下の雄七郎との二人の墓がある。当初東京・谷中墓地にあったが、東京五輪準備でお墓の移設を求められた住職が、長岡の小林家に相談。菩提寺の興国寺の二十三世良辨師に相談したところ、良辨師は長岡に移すことを提案。

昭和34年7月31日トラックで東京を立ち、8月4日に興国寺に到着。8月24日に納骨法要。

明治2年(1869年)昌福寺にて、国漢学校・創設(仮校舎)、米百俵。

明治8年(1875年)東京に在住していた旧長岡藩士と共に育英事業団体「長岡社」を創設。今も、虎三郎の命日の8月24日には、市民も参加して法要が営まれる。

(4) 昌福寺

昌福寺(しょうふくじ)は新潟県長岡市の曹洞宗寺院。鵜殿団次郎の墓や栖吉城主だった本庄清七郎の娘で徳川秀忠に奉仕した妙徳院の墓がある。

また、代々の住職が奉仕した関係で旧制長岡中学校の敷地拡大で移転してきた諏訪神社(俗称は諏訪堂)がある。開基は、堀氏と云われる。

はじめ上田町に在居し、長岡藩の兵糧預かり所となって戊辰戦争では炊き出しを行なう。戊辰戦争では藩の治療所(野戦病院)として使われた。その後、明治2年に小林虎三郎が

1869(明治2)年にこの昌福寺の寺の本堂を借りて国漢学校を開校した。

翌年には新校舎を建てて移転した。(現在の大和デパート付近)

国漢学校は新たに発布された学制によって1871(明治4)年には廃止されて新しい小学校に引き継がれていった。

このような歴史により、昌福寺の門柱の脇に「長岡国漢学校発祥之地」の碑がある。

大和デパート前(長岡市大手通2丁目)には「米百俵之碑」が設置されている。

その後、大手通り交差点・フジヤマの場所、袋町カード近くの場所を経て、

現アオーレの場所に移り、そこが戦後十数年たって火災で焼失し、現在地に移る。

昭和20年、長岡は米軍の空襲を受ける。

「防空壕に避難せよ」を忠実に守ったために、平潟神社268名、柳原の神明様140名という多くの犠牲が出て、そのほとんどは男も女も分からぬ状態のまま、平潟神社で重ねて荼毘に伏した。

その後、引き取り手がないのは不憫という昌福寺住職の尽力で、本寺に葬られた。埋葬の際、人々はその骨の中から肉親の骨として一掴みいただいて持ち帰ったという話が残っている。

その空襲犠牲者を埋葬した戦災殉難者之墓が、昭和22年9月に建立。

毎年8月1日に戦災殉難者法要が行なわれる。

(5) 昌福寺・鵜殿団次郎

鵜殿春風の墓が、戦災殉難者之墓のすぐそばに立つ。

・悠久山 鵜殿団次郎の碑

幕末期の洋学者。蕃書調所教授。号は春風。石碑の右3/4ほどが勝海舟、左の残りが伊東祐亭の撰文で、それだけで、この団次郎は、ただものではないと理解される。

団次郎が蕃書調所教授時代、最新の海外事情、知識を長岡に送り続けたことが、長岡藩の先進化を推し進めたといえる。慶応2年(1866年)に藩に軍制改革に関する意見書を提出しており、これがなければ繼之助の軍制改革も異なったものだったかも知れず、結果の是非は別として、これも教育の力といえると思います。

*伊東祐亭は、初代連合艦隊司令長官で日清戦争黄海海戦を指揮し、東郷平八郎は3、4代の連合艦隊司令長官で日露戦争開戦を指揮、山本五十六は26、27代である。団次郎の墓は、国漢学校開校の地である市内昌福寺にある。昌福寺には長岡空襲犠牲者を埋葬した戦災殉難者之墓があり、毎年8月1日に戦災殉難者法要が行なわれている。

4. トピックス

(1) 星野嘉保子碑の「以成肅雍之徳」について

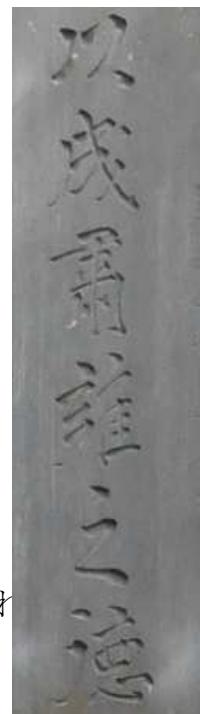
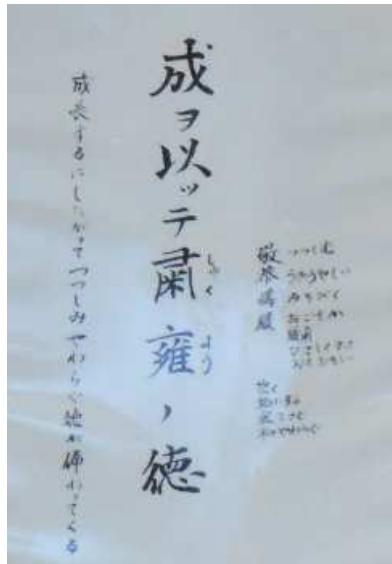
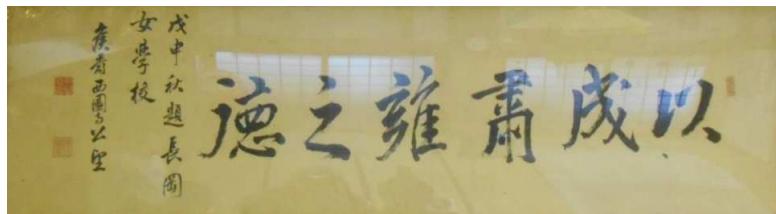
「以成肅雍之徳」 せいしゅくをもってとくのまもりとなす

つつしみ深く穏やかな徳(恵み)の人である、という意味と、「長岡歴史事典」では言われていますが、本堂に当時の扁額添え書きと思われる説明があり、「成るを以て、肅雍の徳」即ち、「成長するにしたがって、つつしみやわらぐ徳が備わってくる」、という解釈です。

この扁額が、学校で毎日生徒達が仰ぎ見る講堂に掲げられていたとの住職のお話と考え方合わせると、なるほど、そう受け取るべき、とも感じます。

それとは異なりますが、当時のご住職の、日ごろの熱心なご門徒であった嘉保子さんの遺徳を偲んで、このような意味を書いてほしいと、公望さんにお願いしたのでは、という受け取り方もあるように思います。

阿弥陀様に深く帰依した先生ですから、この徳は、先生が日ごろ詠まれたであろう親鸞様の和讃にいう「恩徳」、「仏の恩徳」であり、つつしみ深いおこころのなかに慈悲心を示される、というようなことではないかと、拝察しておりました。(春日の私見)



西園寺公望 揮毫の扁額	悠久山 の石碑 碑文
扁額添書き	

揮毫の年の戊申は明治41年(1908年)と思われる。嘉保子歿後4年たっている。

銅像が建立されたのは大正十二年(1923)

記念の石碑が建立されたのは昭和十一年(1936)

(2) 教育の複線化

江戸期 藩校と漢学塾、寺子屋

明治期 藩校から発展、漢学塾、政府新学制の学校

誠意塾と長善館、三餘堂

1880-90年代の漢学塾_誠意塾_(東京大学教育学研究科 研究室紀要 2010)を引用
社会的地位を確立するに至っていなかった制度的な中等教育体系の間隙を縫って、
1890年代にかけて多種多様なノンフォーマルな教育機関が存在していた。その多数
を占める類型として、漢学塾があった。1890年代初頭に至るまでのノンフォーマルな
教育は、フォーマルな中等学校の「代替」「代位」という言葉では表現しきれないよう
な、自生的で独自な発展可能性がありえたということである。20世紀初頭にかけ
序列的・複線的な中等教育制度が確立して以来、現在まで継続するフォーマルな教
育が圧倒的な権威をもつ状況とは異なる風景が、この時期までの初等後教育に広が
っていた。

既に英学等の新たな学問が紹介されてから久しい1880年代(明治13年-22年)にな
っても30校近くの漢学塾が設置認可を受けている。1890年代以降になると設置の
勢いも弱まるが、なお15校ほどの塾が新たに認可されていることは注目される必要があ
ろう。そして塾の一部には、先行の漢学塾で学んだ者が新たに開いたものもあり、
漢学の知識が地域で新たに広がりをみせる余地がなお残されていたことがうかがえる。
また漢学塾の中には、後に高等教育を受けて名を成した人物が学んでいたものがあ
る。これは、明治の漢学塾が担った役割を考える上で重要な点である。

人生の針路を模索し始めた子弟やその父兄は、それぞれの意図をもってフォーマル
な教育機関に限らずノンフォーマルな教育機関も視野に入れて学習歴を蓄積させて
おり、その有力な選択肢として漢学塾が確かにあった。そして、それぞれの塾が
それぞれに共通の独自の魅力を有していたからこそ、1890年代にかけて求められ
続けたのだろう。 ~以上、引用

誠意塾は、長岡町殿町に1881(明治14)年に開かれ、1901(明治34)に一応閉じられた。
長善館は、吉田町栗生津(あおうづ)にあって、天保4年(1833)、鈴木文臺が38歳
で始めた私塾である。文臺を初代として、惕軒(ときけん)・柿園(しえん)・彦嶽(げんがく)の
三代・四先生により、実証的な学問を中心とした教育が行われていた。

明治19年(1886)に中学校令が公布され、中学校も各地に建てられるようになると、
長善館はしだいに学校としての役割を終え、明治45年(1912)80年の幕を閉じた。
なお、三島億二郎は藩校で学び、山田又七の教育は寺子屋、そして山口権三郎、
野本恭八郎兄弟の教育は、豪農の子弟らしく刈羽郡南条(みなみじょう)村(=現柏崎
市)の漢学塾・三餘堂である。この三餘堂は、明治政府から蒲原郡栗生津村の
長善館と並び、北越の文教を振興した「私学の双璧」と認められたとい。

<http://lib.city.kashiwazaki.niigata.jp/siraberu/nanjo/sanyodo.htm>

(3) 誠意塾主・高橋竹之介

(1880-90年代の漢学塾_誠意塾 を参考にした)

誠意塾は、長岡町殿町に1881(明治14)年に開塾、1901(明治34)年に閉塾。

1842年、天保13年に中之島村杉之森に生。三島郡本与板村に学んだ後に

1862(文久2)年11月に西蒲原郡の漢学塾長善館に入館し、初代館主

鈴木文台に一年ほど師事した。

長善館を出た後は諸国の遊歴をはじめ、尊攘思想に深く傾倒していく。

1867(慶応3)年の帰郷後は、豪農層の草隊であった

三島郡本与板村の斎藤赤城に学んだ後に居之隊の活動に身を投じた。

維新後は、遷都反対を掲げて明治三年逮捕せらる。

明治十二年三月恩赦で釈放。

恩赦後は三条、郷里の杉之森、長岡で教育をはじめ、

1883年には長岡で宿舎を築いて「誠意塾」と名づけた。

1901年の閉塾。1909(明治42)年に69歳で没した。

高橋は、「自分の處へ学問をするのみで来ると思ふは間違である。本は読まねばならず知り折居ることは教授もするが品行を端整にして雑役も執り粗食もし、など漢籍の教授に限らず、生活面での指導も積極的に行っていた。

集まってくる熟成は、もともと裕福な家の子弟であるから、「一生涯することのならぬ」ような雑役を命じることで、将来「思遣り」を持った「人を使ふ」立場に立つ者になるように「訓練」するのである。

そして高橋は「父母の代理として御預りをする」という考え方から、雑役を命じるに限らず「自宅に居り父母の許で我儘」をしがちな生活と遮断するために、子弟の行動に積極的な干渉をしていた。

第一の外出時報告の義務。

第二の飲食物品購入の厳禁については、「金銭を浪費させないため。

そして第三の書信等の検閲。

入門した塾生は、四書五経、日本外史、十八史略、文章軌範、…、資治通鑑という順序で、徐々に難易度の高い教育内容に進むことになる。

国家的な時事問題を取り上げて実践への応用を訴える方針は、尊攘活動を積極的に行なった高橋の理念が最も現れているところであると言われている。

師匠である高橋がすべてのカリキュラム指導に関わるのではなく、その一部分は年長の塾生や塾生の自主性に任されていた。一時期、生徒が数学を教授したこと也有ったといふ。

(4) 小国山口家と長岡実業学校創設、さらに工学高等教育研究機関の誘致へ
 以下、山口育英奨学会 資料より

山口家は代々社会公益事業の助成に意を注ぎ、教育関係については特に熱心であり、当主(山口敬太郎氏)の高祖父に当たる山口権三郎翁は、明治5年の学制に基づき居村の横沢村に独力をもって学校を設立し、のちにその設備一式に多額の資金を添えて村に寄付し、村内の子弟の教育に力を尽くしました。

明治25年、青年たちに実業の知識・技術を学ばせようと長岡に実業学校を創設しました。しかし当時はまだ入学希望者が少なく明治31年に閉鎖するに至りましたが、素志を貫徹するため長年にわたり理・工・農の大学や専門学校の学生に学資を貸与して学業を成就させ、多大の成果を収めました。

権三郎翁の長男である山口達太郎翁は亡父の遺志を継ぎ、より広範囲に人材を募集して育英事業を拡充させるため、大正4年に多額の基金を寄付して基金を設立し、その運営を新潟県に委ねて学資を学生に貸与しました。

山口達太郎翁の長男である、山口誠太郎翁もその遺志に従って数回にわたり基金を増額し、新潟県ではこれを山口奨学資金と称して引き続き事業を遂行してきました。しかし第二次世界大戦後の経済変動のため、活動を中止の止むなきにいたり、その基金は現在県有財産として保管されております。

誠太郎翁はこれを非常に残念に思い、育英事業の復活について検討を進めておりましたが実現を見ずに昭和33年11月逝去しました。

山口順太郎翁(当主の父、誠太郎翁の長男)は嚴父の遺志を実現するため尽力し、初代理事長 山口順太郎翁部省(現文部科学省)から許可を得て財団法人山口育英奨学会を設立、初代理事長に就任しました。順太郎翁はその運営に尽瘁し数回にわたり多額の資金を寄付し、また邸内に事務所を建設して寄付しました。

さらに郷土の歴史教育・社会資料保存のため昭和50年「郷土資料館」を建設しました。

順太郎翁は平成16年2月に逝去し、2代目理事長に山口敬太郎氏が就任しました。その後、平成24年4月1日に、公益財団法人の認定をうけ「育英奨学事業」「学術研究助成事業」「郷土資料館運営事業」を柱として公益事業の拡充をめざしております。

引用、終わり

宝田石油の社長の山田又七は、明治末より高等工業誘致に努め、誘致に関与した令終会の主要メンバーであった。また小国山口家は、大正後期の、長岡に本拠を置いた宝田石油と日本石油大合同の前から、日本の石油精製事業をリードしてきた事業一族でもあり、大正後期の長岡高等工業誘致に際しても、大きな貢献をしたに違いない。

また、長岡は、県下で最初の県立工業高校であった村松の学校を明治末に市内に移設し、工業高校教育の基礎を築いている。新潟市の県立工業高校創立は昭和14年である。大正期に創立の長岡高等工業が新潟大学工学部へ引き継がれ、そして長岡工業高校の存在が、戦後の東山丘陵の長岡高専、長岡西部丘陵への長岡技術科学大学の誘致につながっていると考える。まさに、オイルシティの力が、工業生産、商業繁栄のみならず、工学教育・研究の面でも、大きな恩恵を長岡にもたらしてきたといえると思う。

(4-2) 山口権三郎の新ビジネスへの想い（石油事業）

石油採掘、及び石油関連事業への傾倒

帰国後、なぜ、鋼条採掘機の導入、実業学校設立、そして、タンカー、石油輸送貨車、荷役機械、ディーゼルエンジンと、次々に石油関連事業を推進する機械を自社製造していったか。

この答えが、欧米視察の中にあったようだ。

新潟鉄工を、その突破口にしたのである。

1886年(明治19年)、石油産業の重要性に着目し、日本石油会社を設立。

1889-1890年(明治22年)、欧米視察

皇國を守らん船を外国に、つくらしむるぞ辛くもあるかな

(英國造船所で日本発注の船舶視察時)

国のためにおのがためとて国々を、見ればなすべきことのおほかる

(フランス、ドイツ・ベルリンなど視察時)

～国を思う心、愛国心と、高橋実氏は述べている 長岡郷土史視察時Vol55(2018)

これこそが、石油採掘、及び石油関連事業への傾倒の理由であろう。

1892年(明治25年)、青年たちに実業の知識・技術を学ばせようと長岡に実業学校を創設。

1895年(明治28年)に日本石油付属新潟鉄工所開設。

1896年(明治29年)、小千谷金融会社・長岡銀行を設立。(現:北越銀行)

1898年(明治31年)、信越線、直江津・新潟間の開通に尽力(現:北越鉄道会社)

1895年(明治28年)に日本石油付属新潟鉄工所開設。

日本石油(現・JXエネルギー)の関連事業部門として、新潟県新潟市で石油事業関連の機械製造を開始した。

1907年(明治40年)、または1908年、日本で最初の建造タンカー。

但し、船体は鋼鉄製(94総トン)だが推進方式はスクーナー型の帆船。

機械動力付きのものとしては初の日本製の鋼鉄製タンカーとしては、

1908年に日立造船の前身である大阪鉄工所で建造されたもので、

総トン数531トン、タンク容量は400トンである

1910年に分離・独立して正式発足。初代社長には日本石油創始者の長男・山口達太郎が就任。

1917年に本社を東京都に移転した。

1919年(大正8年)には国内で初となる産業用ディーゼルエンジンを開発。

日本で建造されたタンカーとしては、1907年(明治40年)または1908年に新潟鐵工所が国油共同販売所(日本石油と宝田石油が共同設立)向けに建造した「宝国丸」(94総トン)があるが、船体は鋼鉄製でも推進方式はスクーナー型の帆船であった。

したがって、下記の船が、機械動力付きのものとしては初の日本製の鋼鉄製タンカーということになる。

虎丸(とらまる)は、スタンダード石油の発注により日本で建造された最初の機械動力付き鋼鉄製石油タンカーである。

1908年に日立造船の前身である大阪鐵工所で建造された。

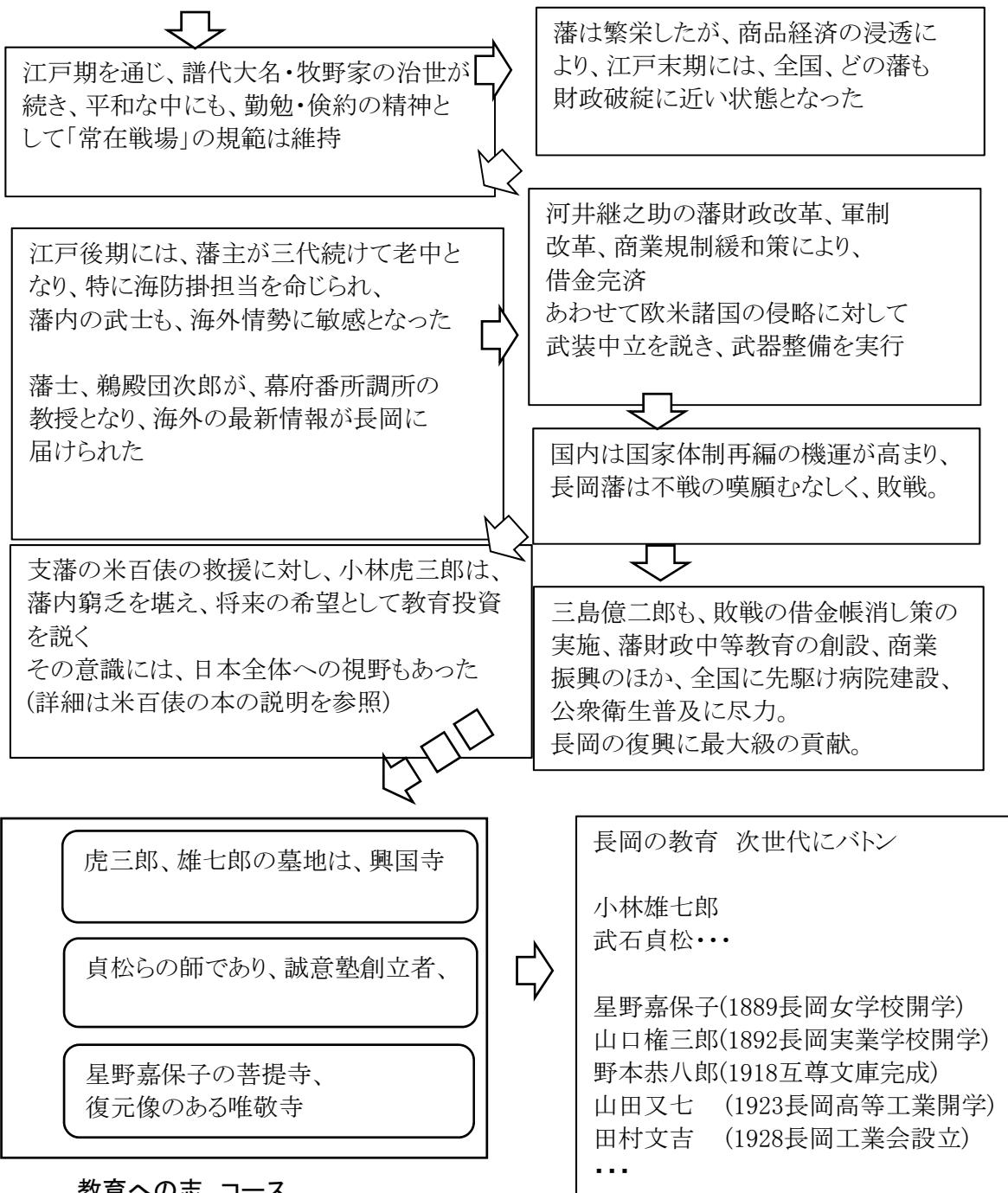
総トン数531トン、タンク容量は400トンである

(5) 「米百俵」の物語が、長岡で生まれた背景

(阪之上小・伝統館でのガイド・ストーリー)

～ 三島億二郎、小林虎三郎については、これで説明する。

仮説：牧野家の「常在戦場」の規範が元になっており、入城依頼、度々苦しめられた信濃川洪水への対応で身に着いた、「将来への備えこそ、藩の永続へ要」というべき新しい規範。「常在戦場」の進化形と考えてよいのではないか。



(6) 悠久山 鶴殿団次郎の碑

・悠久山 鶴殿団次郎の碑

幕末期の洋学者。藩書調所教授。号は春風。 石碑の右3/4ほどが勝海舟、左の残りが伊東祐亨の撰文で、それだけで、この団次郎は、ただものではないと理解される。

団次郎が藩書調所教授時代、最新の海外事情、知識を長岡に送り続けたことが、長岡藩の先進化を推し進めたといえる。 慶応2年(1866年)に藩に軍制改革に関する意見書を提出しており、これがなければ継之助の軍制改革も異なったものだったかも知れず、結果の是非は別として、これも教育の力といえると思います。

*伊東祐亨は、初代連合艦隊司令長官で日清戦争黄海海戦を指揮し、東郷平八郎は3、4代の連合艦隊司令長官で日露戦争開戦を指揮、山本五十六は26、27代である。団次郎の墓は、国漢学校開校の地である市内昌福寺にある。 昌福寺には長岡空襲犠牲者を埋葬した戦災殉難者之墓があり、毎年8月1日に戦災殉難者法要が行なわれている。

(7) 山田又七と工学部キャンパス

山田 又七(やまだ またしち、安政2年8月15日(1855年9月25日) – 大正6年(1917年)12月31日)は、明治・大正時代の起業家・実業家・政治家。宝田石油の創業者。新潟県出身。新潟大学工学部の前身となった長岡高等工業学校の設立を要請しつづけた。

・長岡の宝田石油と山田又七

越後国三島郡荒巻村(新潟県長岡市)の農家に生まれる。1862年(文久2年)、家に入った強盗に右手の親指・人差し指を切りつけられ、指先が曲がってしまったため、農家をあきらめ商人を目指す。1865年(慶応元年)、長岡町の小間物商・竹屋(加藤竹吉商店)に奉公するようになり、後にその養子となるが、1879年(明治12年)に養家を離れ、古志郡浦瀬村で水力による綿糸の紡績工場を営む。1887年(明治20年)、長岡の東部に連なる東山連峰に石油が出る事を伝え聞いていた又七は、新町の精油業者と共に浦瀬村を訪れ露出する石油が良質である事を確認し、その事業化に乗り出した。1890年(明治23年)、同時期に東山油田に目をつけ試掘を行っていた小坂松五郎が、資本の有利から一足先に事業化を果たしたものの、又七も殖栗順平らと山本油坑会社を興した。その直後に長岡石油会社、さらに1891年(明治24年)に高津谷石油会社、地獄谷石油会社、1892年(明治25年)には小坂松五郎らと長岡鉄管株式会社を設立。そして、松田周平から譲り受けた古志郡荷頃村比礼の鉱区を基に、1893年(明治26年)2月に宝田石油株式会社を創設。本社を長岡に置き、又七は社長に就任した。1896年(明治29年)には古志石油と合併し、古志宝田石油株式会社と社名を変更したが、1899年(明治32年)には宝田石油株式会社に復した。また、1898年(明治31年)には製油所を買収して、製油事業にも進出した。明治30年代初めの石油鉱業界は、投機的な零細企業が乱立する一方、アメリカのスタンダード石油などの外資系企業が影響力を拡大していた。そのため、1901年(明治34年)、遊説のために長岡を訪れた大隈重信は、石油業者たちを前に石油会社の合同を提唱した。この提唱に応じて又七は、中小の石油会社を合併・買収し、1908年(明治41年)までの7年間に4次にわたる大合同を断行した。これによって宝田石油は、日本石油と並ぶ大石油会社に成長した。その一方で、無理がたたって会社の経営は悪化し、役員の頻繁な交替による紛争、不祥事が絶えなかった。

この間、又七は1906年(明治39年)には新潟県会議員、1908年(明治41年)からは衆議院議員となり、1911年(明治44年)に緑綬褒章を授与されたが、会社内での実権を徐々に失い、1915年(大正4年)に社長の座を橋本圭三郎に譲った。なお、1921年(大正10年)、橋本らによって宝田石油は日本石油と合併している。一線を退いた又七は、田村文四郎らと令終会を設立し、悠久山公園の整備に着手したが、その完成を見ずに急死した。

長男・山田又司は慶應義塾大学を卒業後、銅山経営に従事し、1924年(大正13年)から衆議院議員を5期務めた。

養子・山田多計治は大阪機械製作所(現・オーエム製作所)を設立し、その社長となった。

以下、T-10-4長岡の実業_工学教育 より

長岡は実践実学を重視する風潮が、さまざまな学派を学ぶことができた藩校時代からあり、それが、虎三郎の実学重視の姿勢となり、

明治21年の長岡商工学会の結成、

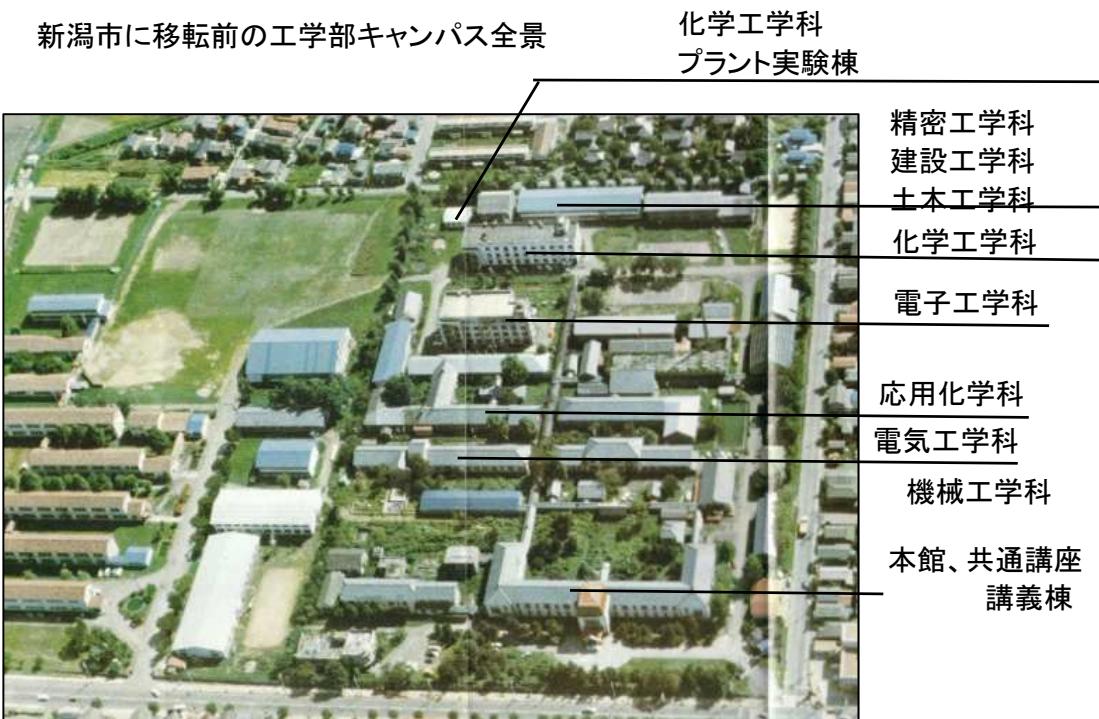
明治25年(1892)の山口権三郎による実業学校開校、(6年後の1898閉校)、

明治41年の長岡商業會議所による長岡女子技芸講習所(後の長岡実業女学校、

現・帝京長岡高等学校)や古志郡立上組農学校の開設(現・県立長岡農業高等学校)、

明治42年の県立村松工業学校の長岡への移転(現・新潟県立長岡工業高等学校)、

大正12年(1923)の長岡高等工業開校へと反映されていったといつてよい。



長岡市立阪之上小学校、「わたしたちの悠久山」第四版 より、
三島君碑、碑文

三 島 君 碑

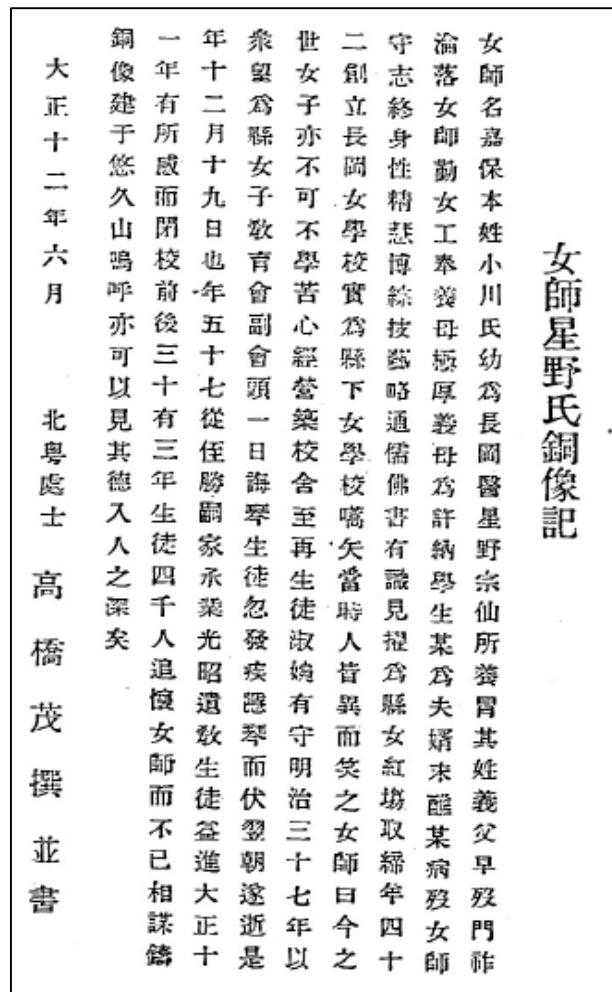
正三位勲三等貴族院議員子爵 牧野忠篤篆額

三島翁、初メ銳次郎ト稱シ、億二郎ト更メ、古狂又三洲ト號ス。本姓伊丹氏、出デテ川島氏ヲ嗣グ。後三島ト改ム。世世長岡藩ニ仕フ。資性謹厚和平、義ヲ重ンジテ堅忍、稍長シテ文武兩ナガラ通ズル所アリ。河井繼之助、小林虎三郎、鶴殿團次郎等、當時ノ俊秀ハ皆其交友ナリ。二十五歳、野口氏ヲ娶ル。此歲江戸ニ勤仕シ、古賀茶溪、佐久間象山等名流ノ門ヲ叩キ、大ニ智見ヲ弘ム。嘉永癸丑、米艦渡來シ人心洶洶タルヤ、翁藩命ヲ受ケ、馳セテ浦賀ニ抵リ、其形情ヲ視察シ、次デ時務ニ就テ建言スル所アリシガ有司ノ忌諱ニ觸レ、讒ヲ獲テ歸藩ス。是ヨリ意ヲ藩政ニ斷ち、學舎ヲ邸内ニ設ケテ子弟ヲ教育ス。既ニシテ戊辰ノ役起ルニ及ビ、藩宰河井繼之助ヲ助ケ兵馬ノ間ニ馳驅スルコト殆ド半歳、事志ト違ヒ城市兵燹ニ罹リ、君臣流離士民四散ス。明治政府新ニ成ルヤ、翁擢ンデラレテ長岡藩大參事トナリ、此慘狀ヲ賭テ傷心痛恨ニ堪ヘズ、渾身誠ヲ效シテ主家ノ再興士族授産ノ途ヲ講ズ。明治三年藩主ニ説キ北越ノ諸藩ニ先ンジテ藩籍奉還ノ義ヲ奏ス。廢藩置縣ノ後、徵サレテ柏崎縣大參事トナリ、後又大區長古志郡長トナル。然モ官仕ハ其志ニ非ズ。幾モナク皆之ヲ辭シ、専ラ力ヲ長岡ノ恢興ニ用フ。國漢學校、長岡中學校、長岡病院、女紅場、六十九銀行等皆翁ノ創設若クハ參劃セル所ナリ。而シテ翁ノ能ク是等事業ヲ成就セルハ、朝野ノ紳士先生ガ翁ノ为人ヲ推重シ、常ニ援助ヲ惜マザリシニ由ル。翁又北海道拓殖ノ志ヲ懷キ、十九年北越殖民社ヲ起シ、老軀ヲ提ゲテ寒地ヲ跋涉シ、移民ノ為メ畫策スル所多シ。二十三年、帝國議會ノ開カルルヤ、衆議院議員ニ推サレシモ固辭シテ受ケズ。間アレバ讀書釣魚以テ自ラ娛ム。然レドモ鄉黨ノ輿望益々其身ニ集ル。二十四年北海ノ瘴癘ニ中リ病篤シ。特旨ヲ以テ從六位ニ叙ス。後稍愈エシモ、二十五年三月二十五日、終ニ長岡ノ自邸ニ歿ス。年六十八。長岡ノ今日アル、實ニ翁ノ力ニシテ、翁ハ眞ニ長岡恢興ノ恩人ト謂フベシ。爰ニ後進一萬一千五百餘名相謀リ、碑ヲ悠久山ニ建テ、永ク其人格ヲ敬慕シ其事業ヲ記念ス。

昭和二年十月 後進 正四位勲三等功四級工学博士 小山吉郎 撰

悠久山
星野嘉保子碑、碑文

長岡女学校謝恩会 没後19年会 幹事名
撰文、高橋(茂)翠村



駒形館長の挨拶 (長岡現代美術館所蔵品カタログ)

長岡現代美術館

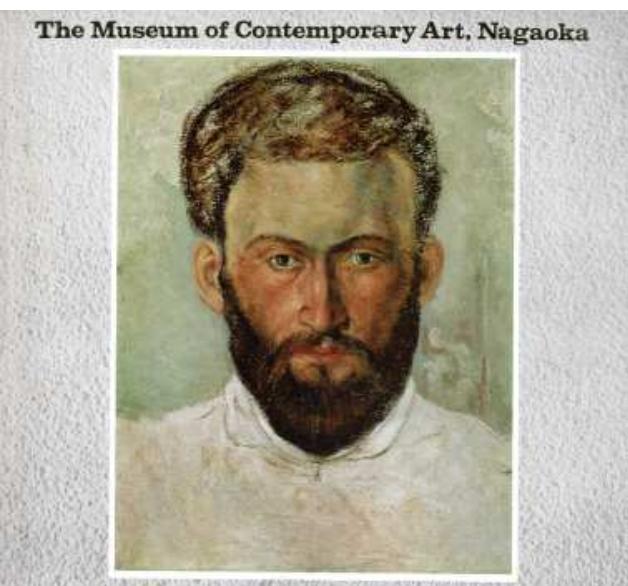
日本民族は、鋭敏なそして豊かな感覚と、洗練された技術で、世界に冠絶した伝統ある美術文化を、つくりあげました。明治に入って、新しく西欧から洋画が伝えられ、それまで日本になかったリアリズムの世界を開拓しますが、今日までの一世纪にも満たない間に、世界のレベルに達して、その重要な役割を果すに至っています。

長岡現代美術館は、この日本の現代美術が、今日の世界美術の中において、どのように位置しておるかを、各国の美術と比較しながら示すと共に、近代において、それが如何に展開して来たかを、明らかにしようとするものであります。このような美術館は我が国においても数少ないものとして重要な意義をもつとの思います。

長岡現代美術館は、現代美術の推進に積極的に寄与することを念願し、この意図に沿った一つの事業として1964年の開館以来「長岡現代美術館賞」を設定して、現代美術に新風を送りこみ、更に広く国際的にも活躍し得る能力を持つと思われる内外の作家を顕彰し、同時に明日のヴィジョンの開拓の原動力となることを期するものであります。

私は今後益々より一層美術館の充実を図り、教育と文化の振興に寄与すると共に、国際的にも貢献したいと深く念願している次第であります。

館長 駒形十吉



長岡現代美術館
所蔵品カタログ 表紙

(Printed on October 1, 1968)



悠久山・石碑の紹介ツアー
～美術・文学・学術の話題マップ

武石貞松・堀口久萬一の「友情の双像」、像製作
の武石弘三郎、碑文の堀口大學と関連の話題

長岡にゆかりのある、武石弘三郎作・戦時金属供出銅像と、復元像、または別の製作

・星野嘉保子像(1923)

復元・星野嘉保子像
(長岡・草生津の唯教寺 本堂前)

・西園寺公望像(1918東)

最後の元老、日本女子大創立等女子教育にも尽力、嘉保子の仕事も応援

公望の石膏像レプリカより復元のレリーフ
(京都・立命館大学の朱雀キャンパス内)

・長谷川泰像(1916東京)

別の製作 (長岡在住の峰村哲也さんが制作)
(長岡・新組の北越戊辰伝承館 前庭)

悠久山の石碑

新潟・西大畑の
「良寛さん遊ぼ」製作

新潟大・旭町キャンパスの池原像
も復元像。
復元星野像も、
履歴を明確にし、
記録に残せば
…。

・星野嘉保子の碑

碑には西園寺公望の書

近年、長岡赤十字病院の近くに、長岡在住
の元井達夫さん製作の三島億次郎の像

・三島億次郎の碑

篆額・牧野忠篤、
撰文・橋本圭三郎

共同制作の「米百俵の群像」
の他、南蛮山への途中の
石彫の道に「星との話」1984

・鵜殿団次郎の碑

撰文は勝海舟
と伊東祐亭

数学、当時の代表的権威者

・松岡譲の碑

撰文は大學

高橋竹之介が同門

長岡の殿町に
誠意塾を開設

新組地域の「三偉人」

燕・長善館で学ぶ

武石貞松・堀口久萬一、
武石弘三郎らが
誠意塾で学ぶ

・長谷川 泰

他に竹山屯の像

湯島天神にあった像は弘三郎が製作

・桑原久右衛門 ～江戸初期の新組(福島)の
庄屋で、福島江の開削に尽力した

武石貞松は、時代は違うが、
中之島で、教育とともに、
猿橋川の治水、開墾にも
尽力

中之島を含め、この地も、江戸期以降、
開墾が進んだが、明治の大河津分水
建設まで洪水との闘いの土地

福島江の、下流側の
終点は、猿橋川

・貞心尼 幕末明治の尼僧、良寛の弟子

友情の双像

中之島・長呂と誠意塾を縁とする出会い

四人は夫々、その道を極め、また各々の人生の岐路で大きく関わり、支援し、大きな流れを作った。弘三郎、大學の才能は、「友情の双像」の二人と、それにつながる縁によって、さらに磨かれた。

高橋竹之介

中之島・杉の森に生まれる

勤王の人、戊辰の役では、新政府側の実質的参謀

武石兄弟の長呂は隣村、ともに庄屋の家

大河津分水建設にも尽力

三島億次郎没後一年の追悼会で、功績を讃える長文の献書(互尊文庫)

共に長岡の教育の縁か

「真野夫婦像」
リイさんとは
縁続き、
原型石膏像
をご所蔵

高橋竹之介顕彰会
の会長 山本桃楓さん

弘三郎晩年の「真野夫婦像」の真野与作・リイ夫妻、武石貞松、堀口久萬一、弘三郎、大學、そして近美所蔵の弘三郎作「老母」の七人は、生前、同じ場に居合わせたかも知れません。久萬一の外交官の生涯と貞松の教育者・篤志家の生涯を主軸に、壮大な、歴史ドラマを見るようです。

開山堂は石川雲蝶の彫刻

魚沼の古刹・西福寺の、新・仁王像の作者
(径1.2mの巨木から二体)

堀口大學と松岡譲

堀口大學

松岡譲

祖父は長岡藩の足軽。
父が日清戦争・朝鮮行の時、
二歳で長岡に引き揚げ。
大学進学まで長岡。

松岡譲の生家は村松町・石坂の本覚寺。

その近くに、庭園の鷺の巣・定正院。

坂之上尋常高等小卒
旧制長岡中学卒

旧制長岡中学で
同級に松岡譲

大學は上組、神田、千手、川西、
中条、新大付属長岡小、他、
長岡高校第二校歌を作詞

松岡譲は、東中学校、小学校
は宮内、中島、太田、栖吉、他。
坂之上小は、第二校歌を作詞

近美の信濃川
対岸の東中の
校歌、「川辺の
さくら」は
福島江の桜

松岡譲の岳父は夏目漱石

松岡譲の娘婿が
歴史評論の半藤一利氏

半藤氏は、編集者時代
から司馬遼太郎と親交

河井継之助
記念館との縁
で、越の大橋
西詰の「峠」
文学碑

文人画家としても知られる
(長岡郷土史料館に作品多数)

松岡の敦煌物語(1943)は、
井上靖の「敦煌」(1959)による
シルクロードブームの先駆け

慶應・三田文学以来、
佐藤春夫と終生の友情

画家のマリー・ローランサン、
藤田嗣治らとも交友を持つ

文化史的小説で、当時の
京都大学・中国史学の
最新研究を読むよう。

参考作品の図

1. 峰村哲也さん作の 良寛像

新潟・市美術館の隣
西大畠公園にある
「良寛さん遊ぼ」011



2. 長岡・釜沢の 石彫の道

石彫の道

元井達夫さん作
「星との話」1984

途中のショート
カットに「復元・
石工の道」

石彫の道の位置 (Google Map)

